

サステイナブル経営研究委員会・委員公募について

2008年5月
サステイナブル経営研究委員会

環境経営学会では2001年度以来、会員有志メンバーにより環境経営について鋭意、研究を推進して参りました。これは、今日のわが国における環境経営／CSR経営に関する方向性を具体的に示すと共に、その取組み状況を客観的に測る方法論を整備して、産業界に提案することを意図しての活動でした。この結果、環境経営格付を3回及びサステナブル経営格付を3回、合計6回にわたる企業との協働活動に結実させることが出来ました(学会ホームページ参照)。この活動については、学会の出版物である「環境経営格付の狙いと結果」(2006年9月)、「サステナブル*経営格付の狙いと特徴」(2006年10月)、「サステナブル*経営格付／経営診断の狙いと特徴」(2008年3月)で詳しく紹介しておりますので、ご参照下さい。

これまで6年間の本学会の環境経営／CSR経営に関する研究を省みますと、それは産業界が直面する様々な課題を並列的に取り上げ、個別企業の取組みをベンチマークして評価するという、いわば企業活動のベストプラクティスを模索し、その評価を格付と言う手段を中心として研究してきたと言えます。

しかしながら今日、温暖化を始めとする地球規模の環境問題は、最終氷河期以降一万年余に亘って育んできた人類文明の持続可能性そのものを危うくするものと指摘されております。このような危機的状況に臨んで我々は、持続可能な未来社会をイメージし、当該社会における人々の生活、行動、社会規範、産業構造等を追及するとともに、その社会の実現に繋がる人々と産業の行動、そのあるべき姿を改めて正面から考え直さなければならないと考えるものです。そして今一度、「われわれは人類のサステナビリティに寄与しているか?」「自社の活動は社会のサステナビリティに貢献しているか?」と真剣に問うべき時期に来ていると考えます。

そこで本学会ではこれまでの、主に格付方法を研究してきた活動を改め、学会設立の理念に沿って「持続可能な近未来社会とは如何なるものか」、「その社会の構築に貢献する組織・企業の経営は、どうすれば持続可能な未来社会の構築に貢献できるか、それらの活動を通じて人類文明の維持・発展に如何に寄与して行けるか」について、他学協会にも呼びかけながら、本格的に研究する委員会をスタートさせることと致しました。この新たな研究では、組織・企業が根を下ろす持続可能な社会のあるべき姿についての追究が欠かせないことは申し上げるまでもありません。また、社会の一員として社会に大な影響力を有する企業、自治体、NPOなどの組織の経営を採り上げ、また、研

究の成果については様々な形で、積極的に世界に問いたいと考えております。

この委員会の役割は、以下のように予定しております。

- ① 持続可能な社会の構築に貢献する組織・企業の経営のあり方の研究
- ② 組織・企業の経営が、持続可能な社会の構築に貢献への対応状況の判断方法の研究
- ③ 以上から得られた知見の、学会外への発信。大学等の教育用素材の整備

こうした広範な研究を進めるについては、本学会会員の皆様は勿論、この研究領域に関連する学協会と広く情報交換、連携も模索して参りたいと考えております。

つきましては、会員の皆様には是非この委員会にご参集いただき、総力を挙げて人類最大の課題である持続可能な社会の実現への道筋を追求していただければと存じます。

会員の皆様の奮ってのご参加をお待ち申し上げます。

<当面の予定>

- ・ 環境経営学会年次大会 シンポジウム「サステイナブル社会を目指す企業経営と市民社会の協働の方向性を探る」5月24日13:00～14:30 東京大学駒場リサーチキャンパス(生産技術研究所コンベンションホール)
- ・ 第三回サステイナブル経営研究委員会 6月13日 9:30～12:00 JQA (財団法人日本品質保証機構: 東京駅前三菱ビル12階) 会議室

<問合せ・参加申し込み先>

恐縮ですが、ご参加にあつては、会場準備の都合がございますので、下記事務局にご連絡下さい。

- ・ 特定非営利活動法人 環境経営学会 事務局: tel.03-5444-2055、e-mail smf@smf.gr.jp

*注: 本文中では「サステイナブル」と「サステナブル」の両表現を使っております。これまでの格付研究の中では「サステナブル」と表現して参りましたが、今後のこの分野の研究は、サステイナビリティ学連携研究機構(小宮山機構長: 東大総長)の表現に合わせ「サステイナブル」と表記することと致しましたので、御承知置き下さい。